

# テレビに映った 会員二人

2016年3月5日夜TBSで放送された「TBS世界ふしぎ発見」の番組に橘会員と故金井会員の姿が見られました。連絡が徹底せず見逃した方が多かったと思います。紙面では不十分ですが再放送させていただきます。

番組はその一部を「幻の切手ブルーモーリシャス 日本とつながる宝物」をテーマにクイズを交えて金井コレクションを中心にモーリシャス(島)を紹介した15分程のものです。

まず、絶滅した鳥ドードー。切手に多く描かれモーリシャスに生息、絶滅したと見られるドードーが長崎に運ばれてきていた形跡のあることを中心にドードーを解説。



更に、ブルーモーリシャスを6枚落札所有した日本人 ヒロユキ カナイ フロム オオサカとして故金井会員の蒐集活動を話題に。



次に、本題のブルーモーリシャスに話が及ぶ。モーリシャスが所有する2枚の切手からブルーモーリシャスを紹介。500枚しか発行されず27枚しか現存せず希少性が高く、競売等で高額で英国王室等に落札されたことを紹介。

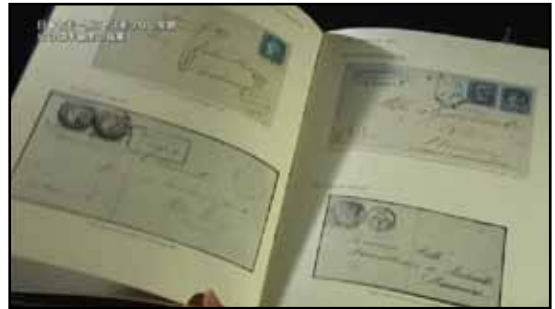
画面は有馬切手文化博物館に。故金井会員がブルーモーリシャスを所有した理由を切手が歴史学等の研究対象になることと、研究対象としての使用済み切手及び封書の価値を、橘会員が、切手リーフをバックに説明。



最後はブルーモーリシャスの持つ歴史的話。モーリシャスが列強争奪の島になり、当初の仏領から英領に変わった。英仏間の緊張感が広がる両国の住民の友好を図るため、英総督婦人が舞踏会を企画。その招待状を英仏両国の貴族に送付するために英国植民地最初の切手が発行された。その制作過程で POST PAID が POST OFFICE と間違っ て刻印され、そのため 1 年間しか使用されなかったという事を紹介。



故金井会員がこの歴史的なブルーモーリシャスと他のモーリシャス切手の資料を交えて研究し、著書「Classic Mauritius」にその成果をロンドンから出版したことを紹介。



著書出版後、故金井会員はすべてのモーリシャス切手を手放し、そのうちの 2 枚がモーリシャスの宝としてモーリシャスが所有し大切に保管しているという。

後日、橘会員より次のような話が寄せられました。

当時の郵便規則上は POST OFFICE という刻



印は間違いではなく、後の規則変更からエラーとして面白く伝わった。また、ブルーモーリシャスを 6 枚手に入れた理由は未使用、使用済み、エンタイヤという切手蒐集の基本を行ったにすぎない。さらに 6 枚をすべて手放したのはモーリシャス切手研究でグランプリ・ド・ヌール (GRAND PRIX D'HONNEUR) という最高の評価を得たので、研究対象変更を考慮したためである。著書「Classic Mauritius」は Stanley Gibbons 社から出版されたこと等を話したが番組では触れられなかった。モーリシャスにある 2 枚の切手は銀行等の出資で建てられたブルーペニー博物館に収蔵されているという。

(編集子)

TV 画面画像は野島会員から提供いただきました。